

## かぐら山スキー (BC) 報告

【山城】上越

【ルート】神楽バックカントリー

【登山形式】山スキー 【メンバー】CL 菊池 吉川、石井、朝岡 (記)

【行動日】2016年 1/23(土)

【内容】4:30 市川インター→ゲレンデ駐車場 8:00→第五ロマンリフト 9:30→BC  
ゲート 10:00→中尾根近辺ドロップ→11:00→2本目 BCゲート 12:00→ 反射板近辺  
ドロップ→13:00 →ゲレンデ駐車場 15:00



第五ロマンリフトのトップにはBCゲートがあり、ここで山行計画書の提出とビーコンチェックを受けてゲートを通過し中尾根方面に向かった。久しぶりの神楽だが、以前とずいぶん変わっている。以前は第五ロマは3月にならないと運行しておらず、下からハイクアップした。コース外との堺には注意書きの看板だけで、BCゲートもなかった。

この日は、ずいぶん多くの山スキーヤー&ボーダが入山していた。それでも広大な神楽エリアでは、まだ食われていない、美味しいそうな斜面が待っていた。

ちなみに、2本目のBCゲート通過時に1本目に提出した計画書を係りの人は見つけられず（入山者が多くて大量の計画書から探し出せなかった）、もう一枚提出した。念のため数枚用意していく方がよさそうだ。

正直、いままで神楽でいい思いをした記憶があまりない。人気があるのは首都圏から近くて、ゲレンデからアクセスできる手軽さだけだと思っていた。が、今回のツアーで神楽のイメージが全く変わった。このタイミングで神楽を選んだCLの経験と知識に改めて脱帽した。ワンシーズンの、限られた時間の中でパウダーに巡り合える機会はとても貴重な。だからこそ、出会えた時の感動は大きい。

若いころから神楽をホームゲレンデとしていたCLは神楽の斜面も知り尽くしていて、ノートラックでかつパウダー三昧の斜面へと引き連れてくれた。あれだけの入山者がありながら、まだパウダー斜面が残っている神楽のスケールの大きさを感じた。

第五ロマンリフトが運行しているお蔭で、1時間ぐらいのハイクアップでパウダーランが楽しめる。

1本目は中尾根をむかってハイクアップ。メジャーな中尾根は外して、誰も入っていないノートラックの斜面を滑走する。パフパフのパウダーで全然怖くない。雄叫びを上げながらあっという間に第五ロマンリフトの下に到着。



2本目、反射板方面にむかう。こちらの方が入っている人は少ない。途中交代でラッセルしながら、滑走ポイントを探る。こちらも、まだパフパフのノートラックが残っていて、2,3本 パウダーを楽しめた。



最後は田代スキー場へ出る。ここから、なが〜いゲレンデ滑走。ゲレンデでは、他のスキーヤーやボードとの接触事故なども想定される。最後まで気を抜かず、けがをしないように慎重に下山。

15:00 ごろ無事に駐車場に到着した。いつも全員無事に下山するとほっとする。今回は、大満足のツアーでした！ CLはじめ、皆様楽しい時間をありがとうございました。

・今冬は暖冬の影響で積雪不足、各地のBCエリアへの入山は厳しかったが今回の大寒波襲来で、ようやく、かぐらエリアは快適なパウダーツアーを楽しめる時期となった。妙高周辺・東谷山・前武尊などはまだ藪が濃くまだ入山は控えたほうがよいようである。

24日は世界的な大寒波襲来で香港・台湾・沖縄などの東南アジア、そしてワシントン・ニューヨークなどの北米にも降雪・低温の被害が出たが、その前日の好条件特異日をゲットして、今までにないほどの快適なデープパウダーランを楽しめた。かぐらは、例年ならすでに積雪も十分で、快適なBCを楽しめる時期であるが、今冬は前日まではやや積雪不足でBCにはまだ早かったが、23日は今冬初めての快適なBC条件となり、まさに、かぐらBCの正真正銘の週末解禁日であったと実感された。

40~60cmの新雪・低温・風弱し、今までにないような三拍子そろった好条件、多くの入山者にもかかわらずノートルルートを選択できるグレイトエリアは総合力から考え、BCエリアとしてはピカイチであると小生は考えている。13年~17年ほど前の40才代後半~50才前半はパウダー練習に足しげく通ったことが思い出される。あの頃は、まだ体力もあり、登り1時間40分ほど、滑走500~800mを2~3本こなしていたが、間もなく67才を迎える小生である。今後もトレーニングに精進し、安全第一で仲間と、かぐらなどの素晴らしいBCを楽しみたいものです。(菊池)

